



学校のオープン化で「絆」をつくる

校長 奥野 隆一

「ふれあいピック」も終わり、生徒たちもおちついて日々の学習にいそしむ季節となりました。東日本大震災から早くも2か月が過ぎます。現地では、復興のめども立たず、依然として多くの人が避難所生活をしています。その中でも、小・中学校の遅い入学式や授業再開の便りが寄せられています。今回の大震災で、東北の人々は大きな被害を受けながら、コミュニティが長年にわたりつくりあげた「共同」「連帯」「自治」を力に復興へ向けて一歩踏み出そうとしている姿が報道されています。報道の中や宣伝で必ず使われる言葉が「絆」です。絆の意味は「断とうにも断ち切れない人との結びつき」（岩波国語辞典）を意味します。「断とうにも断ち切れない」というところに、一般的な人間関係を超えた人とのかかわりを意味しています。本校でも、子どもを真ん中にして、教職員と保護者の関係を「絆」にまで高めることを目指したいものです。相互の風通しを良くし、コミュニケーションの質を高めることが必要でしょう。教職員と保護者が子どものことや学校生活のことで気軽に話し合えることも大切です。そのために、今年は、学校をオープンな公共空間にする取り組みを進めたいと思います。

～各学部より～

<めざす児童・生徒の姿、学部で大切にしたいこと>

<小学部>

「友だちの中で、よろこんで取り組む子」
～自分っていいな、友だちっていいな、
何でもチャレンジ～

- ・ 大好きな友だちや先生と一緒に。
- ・ いろいろな活動に楽しくチャレンジ。
- ・ 「できたぞ。」「やったあ。」という達成感。
- ・ 「自分が好き。」「自分ってすごい。」という自己肯定感。

<中学部>

「自分なりの目あてをもって、
仲間と一緒に活動する子」
～見つけよう 広げよう 仲間とともに～
・ 仲間とともに、いろいろな活動にチャレンジ。
・ 思い切り活動し、やり遂げた達成感。
・ 生活経験の拡大と家庭生活や社会での活用。

<高等部本科>

「自らの課題を見つけ、個性をいかし、
生活づくりに向かう生徒」
～思いをふくらませ、社会に目を向け、
自分らしく進もうよ～
人との関わりの中で・・・

- ・ 自らチャレンジしようとする意欲。
- ・ 進んで生活づくりをしようとする態度。
- ・ 卒業後の生活に向けた様々な積み上げ。

<高等部専攻科>

「社会への関心を持ち、様々な人と関わりながら、積極的に社会へ参加しようとする青年」
～まず、やってみよう、自分を見つめ、
広い社会へとびだそう～

- ・ 自分の目標や夢の実現に向けてチャレンジ（仲間と共に）。
- ・ 七転び八起きの自分づくり。
- ・ 様々な経験、積極的な社会参加。

～ふれあいピック～

5月14日（土）に、本校校庭で「ふれあいピック」が行われました。風が少し強かったのですが、晴天に恵まれ、すがすがしい1日になりました。今年の児生会のテーマは、「みんなでハッスル たのしい ふれあいピック」でした。生徒会長の、「楽しいふれあいピックにしましょう。」という呼びかけに応じて、どの子も精一杯演技に参加し、練習の成果を発揮することができました。交流種目では、附属小・中学校、湖山小学校、湖山西小学校などの交流校の友だちも加わって、一緒にダンスを踊ったり、でっかいスカートに入ったりしました。初めははずかしがっていた子どもたちも、だんだんと打ち



解けて、笑顔が見られるようになりました。参加していただきました交流校の先生方や児童・生徒のみなさん、そして、鳥大ダンス部のみなさん、盛り上げていただきありがとうございます。また、保護者の皆様にも演技に参加していただいただけでなく、事前の除草作業や会場準備・片づけにもご協力いただきありがとうございました。楽しいふれあいができました。

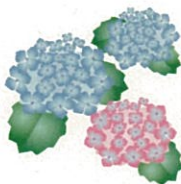
<ご協力ありがとうございました>

～東日本大震災義援金募金：児童生徒会より～

ふれあいピックでは、たくさんの義援金にご協力いただきまして、ありがとうございます。児童生徒会の思いに共感していただいたことがうれしかったです。総額7809円（ふれあいピック終了時）は、今後の義援金活動と合わせて、宮城教育大学附属特別支援学校に送らせていただきます。ご協力ありがとうございました。



～よろしくお願ひします～



本年度、新たに7名の教職員が着任しました。よろしくお願ひします。

竹信 純一（副校長）

児童生徒の力をより伸ばすために教育内容や環境づくりなど、保護者の皆様と一緒に考えていきましょう。

澤田 淳太郎（小学部）

子どもたちと日々の生活を楽しみながら、一緒に成長していきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

有田 裕一（中学部）

特別支援学校は12年ぶりです。初心に戻って、全身全霊をこめて頑張ります。よろしくお願ひします。

熊中 祐子（中学部）

毎日一歩ずつ成長していきたいと思ひています。いつでも元気！よろしくお願ひします。

橋本 靖徳（高等部）

毎日が新しいことの連続です。いろいろなことをしっかり吸収し、生徒とともに成長していきたいです。

藤井 真由美（養護教諭）

子どもたちの小さいけれども大切な変化を感じられるこの学校で、精一杯がんばります！

北村 和生（事務補佐）

特別支援学校のために、少しでもサポートできるよう、微力ながら頑張ります。